

繰り返すまじ戦争の悲劇

震洋隊慰霊祭

8月16日(日)終戦翌日、謎の出撃命令により爆発事故の犠牲となった111人の旧海軍特攻隊「震洋隊」隊員の64回忌となる慰霊祭が行われました。事故現場となった夜須町住吉での慰霊祭は、震洋隊奉賛会(中村昌直会長)が主催で、今年も元隊員や遺族、関係者ら約80人が参列。中村会長が「私たちは戦争の犠牲となったこの悲惨な事故を語り継ぎ、今日の平和を守る責務がある」とあいさつし、参列者は黙とうをささげて故人の冥福を祈り、平和への思いを新たにしました。



お帰りなさい

高知龍馬空港 山北みかんPR



8月13日(木)高知龍馬空港で、JAとさかみと生産者による毎年恒例の山北みかんのPRが行われ、盆休みの帰省客や観光客らに温室みかんを配りました。オレンジ色の法被を着たメンバーとともに、市の観光大使である「ミスマーメイド」も参加。東京便の乗客らを出迎え「お帰りなさい」「お疲れさま」と1袋ずつ手渡ししながら、笑顔と一緒に香南市を売り込みました。受け取った人たちは、思いがけないプレゼントに驚きながらも喜んでいました。

笑顔一杯に海水浴満喫

市社会福祉協議会「海遊交流会」

8月1日(土)夜須町のマリンスポーツ施設で、市内の障害者とその家族ら約70人が、シーカヤックやヨットなどを体験しました。昨年初めて実施したところ好評だったので、今年も開催。当日は、青空の下、波間に体を浮かべて気持ちよさそうにしている人や、カヤックやカヌーに乗りこみ、さっそうと海へ漕ぎ出す人など、思い思いに楽しんでいました。マリンスポーツを楽しんだ後は、みんなでパーベキューを楽しみ、交流会を満喫しました。



ピザを作ろう!

わいわい子どもサマースクール



7月31日(金)のいちふれあいセンターで香南市内の小学生を対象にした教室「ピザを作ろう」が開催されました。この教室は、毎年夏休みに野市中央公民館が実施している「わいわい子どもサマースクール」の一つで、参加した子どもたちは生地作りや野菜切りに挑戦。苦手なピーマンを細かく切り刻んでトッピングするなど工夫し、思い思いの形に焼き上がったピザを大きな口でほおぼっていました。



よさこい踊りで心の交流

第28回八重瀬・高知児童生徒交歓交流会



8月19日(水)から21日(金)の日程で、姉妹都市、沖縄県八重瀬町の児童生徒ら15人が来高し、市内の子どもたちと交流しました。この交歓会は旧野市町から市に引き継いだもので、今回で28回目。高知龍馬空港に着いた一行は、県庁で副知事を表敬訪問した後、絵金蔵と弁天座を見学。歓迎会が行われた弁天座では、この日参加した市内の子どもたちと一緒に皿鉢料理を堪能したり、よさこい踊りを踊ったり楽しく交流しました。よさこい踊りが初めてという児童は「沖縄のリズムとは違うけど、こんなリズムもいいな」と見よう見まねで挑戦。翌日は、龍河洞の探検コース、別府峡温泉で川遊びなどを体験し、楽しい夏の思い出を胸に高知を離れました。



おいしいうどんになったかな?

夜須中央公民館事業

8月5日(水)夜須中央公民館で、うどん教室が行われました。講師には、15年前に始めたうどんの食べ歩きがきっかけで、うどん作りに目覚めたという夜須町の仙頭修泰氏を招き、うどんの打ち方を教わりました。この日の参加者は26人。大人も子どもも夢中になってうどん作りを楽しみました。試食では、講師が事前に打ってきたうどんをおいしく食べながら、自分が持ち帰るうどんと「こんなにおいしくできちゅーろうか」「形もそろうちゅー」などと、見比べていました。



ブルーベリーがいっぱい

東川ブルーベリー観光農園開園



地域の活性化を図ろうと平成18年から東川地区で栽培に取り組んできた420本のブルーベリーがこのほど収穫できるほどに育ち、今年初めて7月18日(土)から8月2日(日)まで観光農園として開園しました。土・日だけのブルーベリー狩りに、高知市やいの町、田野町からの来園者もあり「思った以上に甘い!」と取れたての味覚を楽しんでいました。来年はもっと長い期間開園できる予定だということです。